

# 大学入学共通テストの探求 ④ 地理 A (第1日程) 第1・2問の分析を通して

宅島 大堯

## 一 第1問

「現代社会における地図と地理情報の活用」から6問が出題された。日常生活と結びつけた地図やGISの活用が前面に押し出された。地理院地図やGISを用いた地図の作成、情報の読み取りといった、初見の資料に対して、授業で学習した適切な知識や技能を用いることが求められている。個別的な知識の再生を求める出題はみられなかった。配点20点。

### ピックアップ1題 問1 3

道路や鉄道といった、生徒にとって身近な題材について、初見の地図と資料を用いて推論する問題。経路は最も長い、出発時刻にかかわらず、所要時間が同じJが鉄道。KとLを比較して、所要時間が短く、より直線的な道路のLが高速道路。ただし、本設問は地理選択者でなくとも容易に解くことができる点には課題が残る。

## 第2問

食文化について「なぜ私たちは世界の様々なものを飲んだり食べたりできるのだろうか」という課題のもと大問が構成されている。授業での探究場面を想定した6問が出題され、第一次産業に関して、統計情報の知識だけでなく、流通、食文化の背景、課題の解決策など、多面的・多角的な視点から総合的に考察することが求められている。配点20点。

### ピックアップ1題 問6 12

食文化に関する様々な課題の解決策を構想する設問。現実の社会では「正解」のない解決策について考えるため、解答の際には必ず条件や制約のもとで「正解」を選択することになる。本設問では、リード文中に「各地域の食文化に配慮した持続可能な発展につながるもの」という条件があり、③はこれを満たさないため適当でない。

## 二 紙上ディスカッション

以下、自由参加形式で意見交換したものを要約して報告する。

蒼下(下関南高校) 第1問の問3は、各条件の特徴を踏まえて考察する良問。第2問は、探究主題が広く、地理的な問い方に絞って設定すべき。問5は、地理の学力を見極めるものとなっているか。問6の意思決定や構想の問題は慎重にされたい。

中村(鳥取西高校) 第1問の問4では「人口を表現した統計地図として適当でないもの」を選べとあるが、適当か適当でないかの判断は、判断する側の主観や作成者、時と場合に左右されるので、科目

地理Aの学習の枠(地理教育に携わるものの常識)でのみ成立する設問である。議論されるべき検討課題である。

井上(川崎高校) 第2問の問3は、三つの作物とその栽培起源地域について年間供給量や伝播の過程を手掛かりに解答するが、それを暗記している受験者もいるだろう。栽培起源地域は提示し、作物と伝播の過程を組み合わせれば単に知識を問う問題とならなかったのではないか。

山口(上五島高校) 第1問の問5では、単なる読み取りではなく、地形的にその場所がなぜ危険なのか、何に注意すべきかを考察させており、基礎的知識を活用させる問題である。第2問の問6のように、ある条件下における解決策は今後も出題されるだろう。授業内でも取り組みたい。

首藤(広島井口高校) 第2問の問6では、選択肢①と④は世間一般が認知できる内容を含むが、③は各帰宅者の自宅住所がわかっている前提であり、選択肢の性質がやや異なる。地理情報とGISを活用する主体は誰なのか、どんな条件で活用するのかなど、もう少し詳しい説明が必要。

後藤(佐倉高校) 第1問は、地理総合への架け橋となるような作問を試みたであろうその意志が伝わるものであった。第2問は、課題探究の場面を設定することで受験生や授業者へ広く「地理総合」の意義を広めたいとするメッセージ性を強く感じる問題であった。両問とも、地理総合を見据えたものであった。  
(広島大学大学院教育学研究科博士課程後期)